

全国学力・学習状況調査結果の利活用に向けた状況について

項目	課題・ニーズ	対応の方向性	備考
過去の教科問題の活用	過去の教科調査問題への活用ニーズへの対応。	過去の調査問題をMEXCBTに搭載。日常の授業、補習、家庭学習等に用いることが可能。CBTの特性を活かして、選択式問題は自動採点の機能が利用可能。	
教育委員会・学校における活用	定性的なデータや事例の収集・提供	調査結果の活用事例、調査結果を踏まえた対応に関する、 ・教育委員会向けの活用状況等のアンケート ・事例収集（委託調査研究含む） ・情報交換会 を実施。 ➡国が他教育委員会や学校の好事例を横展開。教育委員会の企画立案や、指導主事の学校指導等での活用を促進。	
	結果分析ツールの開発・提供	教育委員会（都道府県・指定都市・市区町村それぞれ）が調査結果を簡便に分析可能なツールが必要。 現在も分析ツールは存在。国が調査結果を返却する際に、教育委員会自らが分析可能なツールを示しているものの、 ・必ずしも活用されていない（認知度不足）。 ・現在の分析ツールは、使用者によっては使用が難解。 ・分析結果がビジュアル化されないため、そのままでは、分析結果を学校や保護者・地域住民に伝えるのに、等の課題あり。	令和8年度の結果返却時にも活用。
	調査結果の深掘り	調査で明らかになった課題について、丁寧な分析が必要。 （例：低SES層ほど格差が拡大している理由等）	委託研究において実施中。 （専門的な知見を活用した高度な分析に関する調査研究）

全国学力・学習状況調査結果の利活用に向けた状況について

資料3-1
 全国的な学力調査に関する専門家会議（令和7年度第8回）
 2026年3月17日（火）10:00～12:00

項目	課題・ニーズ	対応の方向性	備考
研究者等のデータ活用	データ貸与	データ貸与に関する仕組みを改善。 【今季のデータ貸与会議でお示し済】	令和8年度から適用。
	データの整理	毎年度実施している調査結果が経年比較・分析しにくい状況。 国研HPにて「全国学力・学習状況調査 質問調査アーカイブ」を公開（令和8年1月）	総務省事業にて実施中。
	パブリックユースデータの更新	平成27年度以降更新されていない。ダウンロードして学生や統計初学者が手軽に活用できるような疑似データの更新が必要。 令和6年度調査の1万人規模疑似データを公開（令和8年1月公開）	